

事務事業名	青少年国内交流・交流支援事業(小笠原村)		所属部局	教育委員会		単位番号	12376								
			所属課室	生涯学習課		課長名	新津 岳								
	☐ 実施計画事業		所属担当	生涯学習担当		担当者名	小野晃利								
基本政策	基本計画体系	情報と連携の都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目					
政 策		04 国際交流・地域間交流の推進	事業区分	01	一般	1	0	4	0	3	0	3	0	0	8
施策		06 交流活動の推進		☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金											
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始年度 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度) ~ (年度)	法令根拠													
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 友好姉妹都市である東京都小笠原村の中学生との交流事業は訪問と受入れを隔年で実施している。			事業費の主な内訳 (22年度)											
				項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)											
				報償		90		その他負担金		380					
				その他報償		6		その他補助金		569					
				普通旅費		29									
				消耗品費		11									
				通信運搬費		1		計		1,086					

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

活動	
22年度活動実績	本市から小笠原村へ訪問団を派遣した。
23年度活動予定	東京都小笠原村の生徒を受入れし交流事業を実施する予定。
対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市内の生徒 小笠原村の生徒	
意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
友好姉妹都市である東京都小笠原村の生徒と南アルプス市の生徒が夏休みを利用して交流することにより親睦を図る。	
上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
友好姉妹都市である小笠原村のことを南アルプス市の児童が深く理解する。	

活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 事業実施回数	回数
イ	
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 訪問生徒数	人数
イ 受入生徒数	人数
ウ	
成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 小笠原村と親睦が図れたと感じた生徒数	人数
イ	
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 小笠原村のことを理解した生徒数	人数
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	224	1,086	312	1,579	312	1,500	
	事業費計 (A)			千円	224	1,086	312	1,579	312	1,500	0
	人件費		正規職員従事人数	人	4	3	3	3	3	3	
			延べ業務時間	時間	120	200	120	200	120	200	
			人件費計 (B)	千円	535	892	475	792	475	792	0
			(A) + (B)	千円	759	1,978	787	2,371	787	2,292	0
活動指標		アイウ	回数	1.0	3.0	1.0	3.0	1.0	3.0		
対象指標		アイウ	人数	18.0	20.0	30.0	20.0	30.0	20.0	30.0	
成果指標		アイウ	人数	18.0	20.0	30.0	20.0	30.0	20.0	30.0	
上位成果指標		アイ	人数	18.0	20.0	30.0	20.0	30.0	20.0	30.0	

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併以前の旧町村により友好姉妹都市として締結以来、青少年の健全育成を目的として相互訪問を実施し、交流を図っている
事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	対象が旧町村単位から全市に拡大し、参加応募者が増加している
事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	特になし

(4) 改革改善の取り組み状況

改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている 【内容！】 ☐ 取り組みしていない 【理由！】
これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	補助金の精査、事業日数の調整
H 22年度に実施した改革改善の内容	訪問時の人数調整。

事務事業名	青少年国内交流・交流支援事業(小笠原村)	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	----------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) 【理由↓】 ☒ 結びついている 【理由↓】 青少年が、新しい地域の生活習慣を見聞するとともに地域の人と交流を図ることにより、新たな考え方が芽生え広い視野の持った青少年育成につながる。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 妥当である 【理由↓】 市が姉妹都市を締結して行う事業である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある 【理由↓】 ☒ 適切である 【理由↓】 南アルプス市と小笠原村の児童が親睦を図り、広い視野をもった青少年育成を目的とする事業なので適切である。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
有効性 評価	成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ 向上余地がある 【理由↓】 ☐ 向上余地がない 【理由↓】 参加者の選考方法について見直しを図り、より姉妹都市への趣味の持った児童・生徒を選考することで姉妹都市の理解が深められ、事業が充実する。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある (類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる 【理由と具体案↓】 ☐ 統合・連携ができない 【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☒ 影響あり 【理由と影響の内容↓】 青少年が、姉妹都市と友好を図る機会が無くなる。	☒ 休止・廃止ができる ☐ 休止・廃止できない 【理由↓】 政策的に事業をしないと判断された場合休止・廃止が可能
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☐ 削減余地がない 【理由↓】 個人負担金の増額	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
	人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 削減余地がない 【理由↓】 政策的に事業をしないと判断された場合休止・廃止が可能	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映
公平性 評価	受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある 【理由・具体案↓】 ☒ 公平・公正である 【理由↓】 広報誌により広く市民に周知し、事業開催をしている。定員がオーバーした場合、公平に抽選により受講を決定する。	3評価(Check2)・4今後の方向性に反映

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	訪問 H23年度の津別訪問より参加希望者から作文提出を義務付けた。このハードルを乗り越えてでも参加したい意欲ある希望者による交流は意義があるものになると想定される。 受け入れ 先方自治体からの希望がある限りは継続する。 有効性・効率性見直しに関してはいずれも訪問時のものであるためH23年度は現状維持とする。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性 の結果) ☐ 公平性改善(公平性 の結果) ☐ 休止(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ 成果向上(有効性 の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性 、 、 の結果) ☐ コスト削減(効率性 、 の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr> <tr> <th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr> <tr> <th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr> </table> 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☐																		
	維持	☐	☒																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策	(5) 事務事業優先度評価結果																					
	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td><td></td></tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td><td></td></tr> </table>	成果優先度評価結果		コスト削減優先度評価結果																		
成果優先度評価結果																						
コスト削減優先度評価結果																						